



# Global Awareness I : Exploring Culture and Society

## 外国人教員による特別プログラム

Group2



実施日: 2022年10月12日、10月26日、11月2日、11月16日

実施場所: 2号館GB154教室

リーダー: 情報学部情報学科1年 牛山 裕葉 / 医学部保健学科看護学専攻1年 田中 心花

講師: 大学教育・学生支援機構大学教育センター Jeffrey Contreras 先生 / Sylvain Bergeron 先生

### 目的

Pechakuchaを通して、英語力の向上や自分の考えをその場で考えて発表できる能力を身につける。また、ペアで世界の様々な事例を調査し発表することで、グローバルな人材として世界へ視野を向け、課題等を深く考え、共有することで互いに学びを深める。

### - Pechakuchaとは -

- ・すべて英語によるプレゼンテーション
- ・スライドに入れる文字は、タイトルなどの最低限にとどめ、画像や写真を表示する。
- ・1スライドにつき20秒の制限時間があり、自動的に次のページに移る。
- ・原稿を事前に準備せず、その場で内容を考えながら話す。

### 活動内容

<Lesson1> Jeff先生とSylvain先生と初顔合わせ、グループ内で自己紹介(図1)

先生方の自己紹介やGlobal Awarenessについてのガイダンスの後、英語での自己紹介を行った。

<Lesson2> 1st Pechakucha presentation、Pair (Group) でトピックの話し合い

「好きなものや地元、家族などの自分にまつわること(表1)」について個人でテーマを決め、6人グループで1人ずつ発表する形でプレゼンテーションを行った。発表の後、質疑応答をしたり感想を伝え合ったりした。

<Lesson3> プレゼンテーション準備→ペアワークで資料集め、スライド作成(図2)

ペアごとに発表テーマを決定し、主にインターネットを用いて情報を集め、パワーポイントでのスライド作成を進めた。内容だけでなく、画像を使用する際の著作権や文の引用元を明確にすること等にも注意した。

<Lesson4> 2nd Pechakucha presentation、記念撮影(図3)

ペアで「グローバルな問題や文化(表2)」についてのプレゼンテーションを行った。発表後には学生同士での質疑応答や先生からのアドバイスがあった。

### 学習した点

<Lesson1,2>

学部や出身地が違う初対面の相手の前で話すこと、プレゼンテーションを原稿を見ずに行うこと、さらに英語のみで話すこと、どれもこれまで経験したことのないものであった。その中で、英語はもちろん、以下のようなコミュニケーションのポイントを学ぶことができた。

- ・完璧な文章でなくても、知っている英語を組み合わせる相手に伝えようとする意志が大切である。
- ・相手の反応を見て理解の程度を測り、必要に応じて説明を付け加えていく必要性。

<Lesson3,4>

【調査】違う学部同士のペアが多かったため、興味のある分野が異なることもあったが、自分とは違う背景を持つ人との活動だからこそ、異なる視点から世界の文化や課題を見ることができ、互いに視野を広げることができた。

【スライド作成】著作権への配慮や、見ている人に伝わりやすい視覚的効果の工夫をすることは、今後リーダーとして多くの場で発表する機会がある私たちにとって大きな学びになった。

【発表】自分の英語力で、聞いている人に最大限伝えられる方法を考えることができた。具体例を以下に挙げる。

- ・言葉だけに頼らずに、目線を聞いている人に向けてことやスライドの着目点を指すことで、伝えたい意欲や内容のアピールができる。
- ・ジェスチャーやスライド、表情などの言語以外の要素も重要である。

<他のペアの発表>

自分たちが調べた分野との共通点や異なる点、新たな国際的な知識を学んだ。特に、SDGsと関連付ける内容が多かったことから、発表者と自分の意見を比較することでグローバルな視点を身につけることができた。

### まとめ・今後の展望

Global Awarenessを通して成長した点

**Global** 世界の課題や文化についての調査を通して、**知識を身につけた。**

**Frontier** SDGs達成に向けた意見などを発表に取り入れ、**世界的な課題の解決方法を考察した。**

**Reader** 聞いている人に関心を持ってもらう**発表の工夫**ができた。

今後に活かせること

- ・一つの課題に対して、複数の視点からの見方があるという学び
- **様々な背景を持つ世界の人と関わる中で、互いの価値観を尊重するために重要である。**
- ・英語を用いた、原稿のない即興での発表
- **自分の思いを的確に言語化し、相手に伝えられる工夫や能力を身につけることができた。**

### 謝辞

明るく楽しい講義を通して、プレゼンテーションのご指導をくださったJeffrey Contreras先生とSylvain Bergeron先生に改めて感謝申し上げます。また、活動をサポートしてくださった皆様、そして、意欲的に参加してくれたGroup2の仲間たちにも感謝申し上げます。

We would like to thank Prof. Contreras and Prof. Bergeron for giving enjoyable lectures and teaching presentations. We would also like to thank everyone who supported our lectures, and all Group2 members.

表1: Lesson2のテーマ例

Self Introduction	Family
Pet	Hometown
Hobby	Favorite things

表2: Lesson4の各テーマ

Ethnic Racial Equality	Problems Facing Bangladesh
Differences In Behavioral Value	Sustainable Architecture
India's Caste	Japanese Traditional Food Abroad
Children and Hunger in Myanmar	Disaster Prevention
Music changes the world	Sustainable Energy



図1: 先生方によるガイダンスの様子



図2: ペアワークの様子



図3: 記念撮影